



みなさま

平和の礎として水の大切さを世界へ発信し続けています！

その理念は

「水の偉人と平和」－水は平和の源－

私たち小松電機産業・人間自然科学研究所は、偉大な先人に学び「やくも水神」事業を通して「水は平和の源」を理念として世界恒久平和のプラットフォーム構築の一翼を担う活動を長年にわたりおこなっています。今まで171名の方を水の偉人として顕彰させていただきましたが、このたびアフガニスタンで水路建設に命を捧げられ73歳でお亡くなりになられた「中村哲」さんを172人目の水の偉人として永くその活動を讃え顕彰させていただきたいと運動をすすめています。

中村哲さんの志を受けとめ、未来を拓く。

中村哲さんは、日本の医師です。アフガニスタンでは「カカ・ムラド（ナカムラのおじさん）」と呼ばれていましたが、2019年12月4日、アフガニスタンのナンガルハル州ジャララバードにて銃撃に倒れ残念ながらお亡くなりになりました。享年73でした。

中村哲さんは1984年、日本キリスト教海外医療協力会から派遣されてパキスタン北西辺境州の州都ペシャワールに赴任。以来20年以上にわたってハンセン病を中心とする医療活動に従事され、パキスタン・アフガニスタン地域で活動されてきましたが、パキスタン国内では政府の圧力で活動の継続が難しいとアフガニスタンに拠点を移し活動をされてきました。病氣と貧困にあえぐ人々を救う医療活動に従事されながらその生活を直視され、健康を大きく阻害している問題に取り組み始められました。

「この人々の生活にゆたかな水があれば、多くの病氣と帰還難民問題は解決できる」と決断され、多くの方々に呼びかけられました。自らも医者でありながら大型機械を運転され、クナール川からガンベリー砂漠まで総延長25キロメートルを超える水路の建設をスタートされ見事な水路が完成しました。その活動ぶりは世界の人々の感動を呼びました。そして約10万人の農民が自らの力で暮らしていける基盤を造られました。

医療従事者である中村哲さんが「本当に人々を救うために、水が必要だ」とお考えになったのは「命の尊さ」命へ真剣に向き合われたからでした。

まさに、「平和・環境・健康はひとつ」という感動の事業となりました。私たちは中村哲さんの志を引き継ぎ、学び、行動していくことを改めて決意させていただきました。



番組内でリスナープレゼントとさせていただいた、絵本「カカ・ムラド——ナカムラのおじさん」を通してアフガニスタンで用水路をつくり、多くの人の命を救い、平和を育む道しるべをつくられた中村哲さんをご紹介します。



双葉社刊 「カカ・ムラド —ナカムラのおじさん」
原作 / ガフワラ 訳・文 / さだまさし

関連動画 2005年3月19日放送 (9分19秒)
朝日ニュースター よみがえれニッポン対談番組
ニッポン再生・逆転の発想「コミュニケーションについて」



対立から共生の文化へ

長い歴史問題から生まれた国家間対立、近年では深刻な米中対立、核・スマートフォンの爆発的普及、世界を覆うコロナ禍、とめどもない通貨政策などが重なり、朝鮮半島と日本列島から究極の危機が始まりかねません。

朝鮮半島の対岸、中海・宍道湖圏域で活動が続けてきた人間自然科学研究所は、「天の時・地の利・人の和」を得て、「対立から共生の文化へ」転換する「平和・環境・健康」「宗教・政治・経済」「感激・感動・覚醒」を深く考察、議論、活動を通じて「天命」へと繋がりました。

朝鮮半島対岸に位置する中海・宍道湖圏域は、核大国の中国・ロシア・アメリカの対立と日本・韓国・北朝鮮の対立に国内の地域間・世代間・貧富の差の拡大・国家の統治不全も重なり、社会不安が急速に拡大しています。

このような状況下に、島根原発三号炉の完成を控えています。

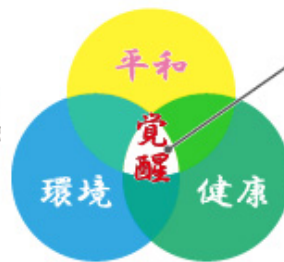
政略(原則)の上位概念の天略(原理)から、**真の地方創生**のストーリーを描くことにより、これに関わる方々の才能が次々と開花し、**真の健康寿命**を賜る流れが始まると信じています。

平和の定義＝戦争の無い状態は言うまでもなく、才能の開花を妨げる社会の文化的・構造的要因も無い状態

平和は創るものです。平和は、あたりまえのようにこの世に存在するものではありません。人間という生き物の特性を知り、その危うさを自覚するところから学ばなければなりません。

環境の定義＝社会環境（世界人的環境・国内人的環境）と、地球の歴史と、人類の長い営みから生まれる自然環境。

私達は地球をひとつの生命系として連鎖して存在しています。自然破壊、経済優先、効率主義の蔓延による危機が迫り、このままでは人類の悲劇は避けて通れないと思われれます。「豊かさの指標を変える」新しい哲学が必要です。そしてその哲学から生まれる新しい事業こそ私達が担うべき事業です。



「永遠の命を賜る」

健康の定義＝肉体及び精神（心と脳）が時間（神）の経過と共に、次々と才能が開花する状態。人類は自然界で関係性が無いと生きていけない生命体。価値観が同じで得意領域が違う3人が語り合う状況が必要とする。三人寄れば文殊の知恵。

人は何のために生きるのか。私は「楽しく愉快に天寿を全うしたい」と考えています。そのためには自分の才能が開花して光り輝く状態であり続ける生き方を実践し続けるチカラが大切だと考えます。健康寿命を長くする秘訣はまさに自分の中に眠っている才能を呼び起こし鮮やかに開花させることにあると考えています。

編集後記

中村哲医師が銃弾に倒れてお亡くなりになったニュースが世界を駆け巡った時の衝撃は今でも強く心に残っています。お亡くなりになって早1年が経過しました。悲しみが癒えることはないでしょう。そして、ひとりの人間が遺された功績は時間を超えて永遠に語り継がれていくことでしょう。

「平和・環境・健康はひとつ」というメッセージを世界に届け活動されている小松昭夫社長にとっても中村哲さんの死は大きな出来事だったと思います。長年取り組んでこられた「水の偉人顕彰活動」に、是非中村哲医師のお名前を顕彰してほしいと動かれる姿にもその強い意志を感じています。「歴史はひとりから始まる。しかし、ひとりではできない」という言葉をよく小松社長は口にされます。あとから続く人がいてこそ事業は継続します。「平和・環境・健康」という3つの言葉に共感し、自分の人生を通して取り組む人がたくさん生まれる「文ジニアネットワーク」のスタートが期待されています。

編集人 長谷川泰二



小松電機産業株式会社



人間自然科学研究所

Copyright © 2020 Komatsu Electric Industry Co.,Ltd., All rights reserved.